

2016年

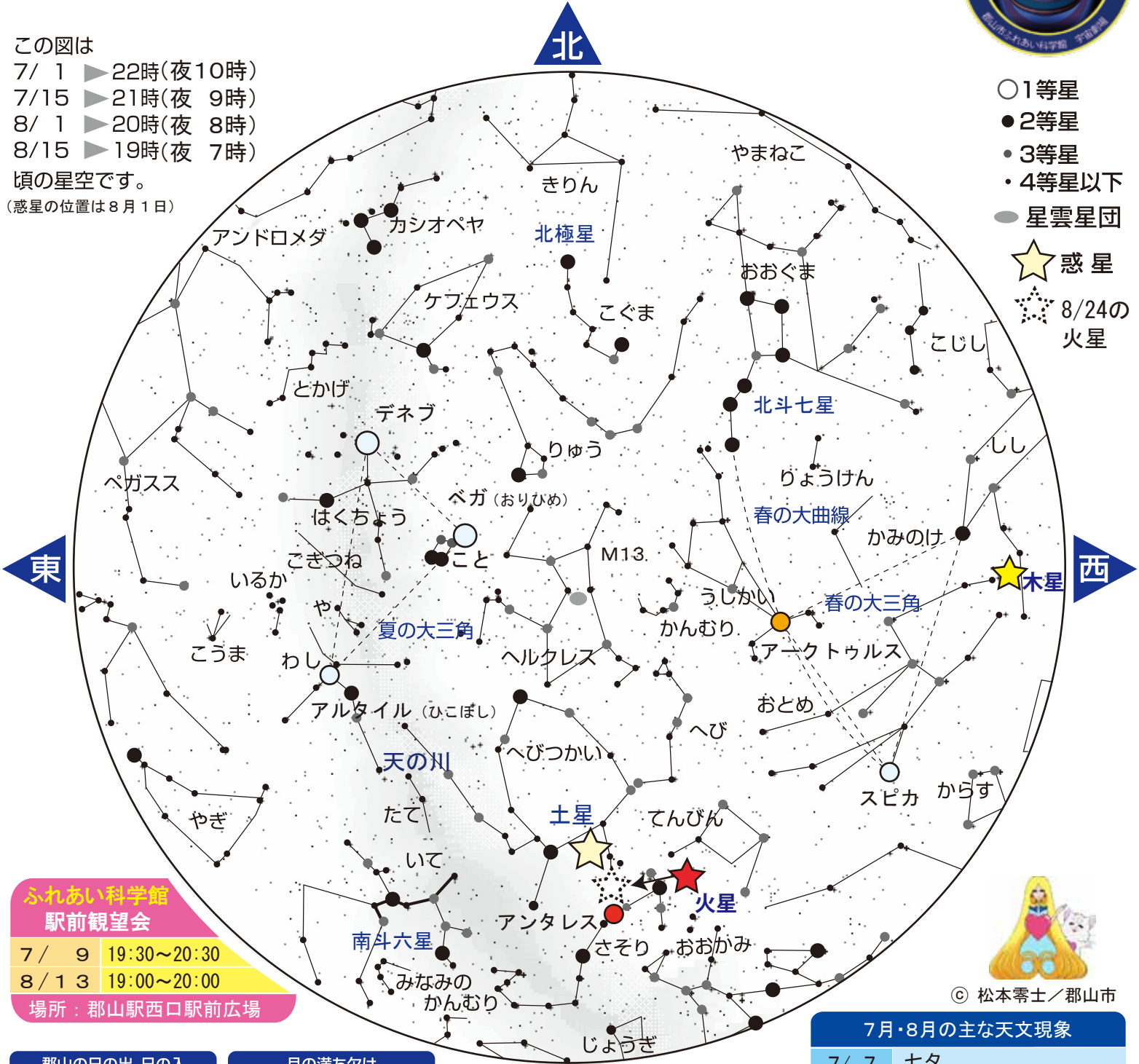
7月▶8月の星空



この図は
 7/ 1 ▶ 22時(夜10時)
 7/15 ▶ 21時(夜 9時)
 8/ 1 ▶ 20時(夜 8時)
 8/15 ▶ 19時(夜 7時)

頃の星空です。
 (惑星の位置は8月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ★惑星
- ☆8/24の火星



ふれあい科学館
駅前観望会

7/ 9 19:30~20:30
 8/13 19:00~20:00

場所：郡山駅西口駅前広場

郡山の日の出、日の入			月の満ち欠け	
7/ 1	4:21	19:04	新月	7/ 4, 8/ 3
7/15	4:29	18:59	上弦	7/12, 8/11
8/ 1	4:42	18:47	満月	7/20, 8/18
8/15	4:54	18:31	下弦	7/27, 8/25

※上弦、下弦は半月です。

7月・8月の主な天文現象	
7/ 7	七夕
7/28	みずがめ座δ流星群極大
8/12	ペルセウス座流星群極大
8/24	火星とアンタレスの接近

このころの夜空を見上げると、南の空にある火星と土星が目をはききます。街中でも見つけやすく、夜遅くまで出ているのでじっくり眺めるチャンスです。望遠鏡で観ると、火星の赤い表面や土星の環を見ることができます。

惑星は星座の間を動いていくため、空を見上げる時期によって星座の星との並びが変わっていきます。特に、火星は8月下旬にさそり座の1等星「アンタレス」と並んで見え、2つの赤い星が隣り合って輝く姿が印象的です。ちなみに、火星のように真っ赤な色をしていることから、「アンタレス」は「火星の敵」という意味を持っています。

夜空に目が慣れてきたら、さそり座のあたりから立ち昇る天の川を探してみましょう。天の川は私たちの銀河系の姿が光の帯として見えているものです。天の川を通して宇宙に浮かぶ銀河のようすを想像してみると、星空から宇宙のロマンが感じられるでしょう。天の川沿いには夏の代表的な星座たちがあります。七夕の「おりひめ」や「ひこぼし」が見えており、はくちょう座の「デネブ」を合わせた「夏の三角」の大きな星の並びも見ごたえがあります。天の川は月明かりがある時は見えにくいので、新月の前後一週間が天の川が見える時期の目安です。

夏休みということで、街灯の少ない山や海へ出かけることもあるかと思いますが、その時には夜更かして星空ウォッチングをしてみたいかがでしょうか。虫さされや冷え込み対策として、長そで、長ズボンで出かけるようご注意ください。



© 松本零士/郡山市

